

## A. 黒田如水屋敷跡 (三) 丸御鷹屋敷跡 (福岡城)



関ヶ原の役の功により、黒田長政が筑前黒田藩の初代藩主となり福岡城を築いた後、黒

田官兵衛(如水)も晩年を福岡城で過ごしました。その隠居地が現牡丹芍薬園です。

開館時間 9時~17時

ただし、12月29日~1月3日は休み

## B. 表御門跡 (福岡城)



表御門は、大正7年(1918年)に、黒田家の菩提寺である崇福寺(博多区千代)に移築され、同寺の山門として使用されています。(写真右は古写真)

## C. 松の木坂 (福岡城)



二の丸に至るルート(門)の一つです。江戸時代には、城の防御のため、力ギ型に曲がっていましたが、現代の改修で緩やかなカーブの坂に変わりました。(写真右は古写真)

## D. 福岡城・鴻臚館 案内処 三の丸スクエア



三の丸スクエアでは、時の重なりを地層で表現した内観に、鴻臚館、福岡城の歴史をハイライトでご紹介しています。また、「セントラルパーク構想」を中心に、未来の姿についても知っていただくことができます。

(開館時間: 9時~17時)

# E. 天守台 (福岡城)



福岡城にはもともと天守閣はなかったとされていますが、近年天守閣が存在したという説もあり、「幻の福岡城天守閣」をめぐる議論が続けられています。現在の天守台からは福岡市北側の風景が広く望めます。

## F. 多聞櫓 (福岡城)



ていることから、いざというときの防御のための櫓と考えられています。内部はイベント時などに一般公開されています。

## G. 祈念櫓 (福岡城)



本丸の北東隅に鬼門封じのために建てられた櫓です。大正時代に北九州市の寺に移築されていますが、昭和58~59

年に城内に再移築されました。また昭和32年に福岡県有形文化財(建造物)に指定されています。

# みどりいろいろめぐってみよう!!

## H. 鴻臚館跡展示館



平安時代の外交施設、鴻臚館の遺構の出土状態と復元建物、出土遺物をみることができます。入場無料。開館時間 9時~17時(入館は16時30分まで)

ただし、12月29日~1月3日は休館

## I. 万葉歌碑



『今よりは 秋づきぬらし あしひきの 山松 かげに ひぐらし鳴きぬ』西暦736年、新羅の国に派遣された使節一行が往路筑紫の館に着いた時、故郷大和の方を望んでよんだ歌が石碑となっています。筑紫の館は後に鴻臚館と呼ばれ、宿泊施設と迎賓館を兼ねたもので、ここ福岡城跡内にありました。

## J. 名島門



小早川隆景が築いた名島城の脇門で、黒田長政が居城を名島城から福岡城に移すとき黒田24騎の一人である林掃部に下げ渡され、邸宅の門として使用されていたものです。明治の中ごろ、当時の代議士平岡浩太郎氏によって買い戻され、戦後現在地に移されました。

## K. 東御門跡 (福岡城)



藩主を支える家老職の屋敷があった三の丸から、二の丸→本丸→天守台と、城内を登っていくためのメインルートでした。「鏡石」と呼ばれる巨石や、石垣の上部には冠木(かぶき)(横木)を設置していた跡が見られます。

## L. 旧母里太兵衛邸長屋門



福岡県指定文化財に指定されています。母里太兵衛は黒田24騎の一人です。母里太兵衛の当時の屋敷は、天神2

丁目野村証券株式会社(現福岡天神センタービル)のあった地にあり、この長屋門はそこに構えられていました。保存のために、昭和40年にこの地に移築されたものです。

## M.(伝)潮見櫓 (福岡城)



潮見櫓とは海を監視するためのもので、海に面した福岡城らしい櫓です。「(伝)」と付く理由は、博多区千代の崇福寺に移築されていた月見櫓

が本物の潮見櫓であることが確認されたためで、現在城内にある櫓を「(伝)潮見櫓」と呼ぶようになりました。

## N. 福岡城むかし探訪館



古地図や再現模型を通して、さまざまな角度から福岡城を身近に楽しく体感できる施設です。観光案内や休憩施設も併設していますので、ゆっくり鑑賞を楽しんでいただけます。

開館時間: 9時~17時(7~8月は9時~19時)  
ただし12月29日~1月3日は休館

